

賞	賞典	作品名	受賞者	出身校
大賞	トロフィー 賞金200万円	＜該当作品なし＞		
佳作	トロフィー 賞金50万円	ハラペコ	庄司 さやか	東京藝術大学 美術学部 デザイン科
佳作	トロフィー 賞金50万円	立体風の造形研究 ー浮遊する機能的造形ー	黒沼 宏美	東北芸術工科大学 デザイン工学部 生産デザイン学科
佳作	トロフィー 賞金50万円	茶道	三村 健太 *磯部 拓也	エスモードジャポン大阪校 総合科 スティリズム専攻
三菱化学賞	トロフィー 賞金50万円	tri-structureによる藻場再生プログラムの研究 ー海浜環境における「からみ・ほぐし」造形論ー	丹 洋祐	長岡造形大学大学院 造形研究科 空間計画学専攻
水野誠一賞	審査員選評入り盾	旭川ー水の百様ー	島田 真帆	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
石井幹子賞	審査員選評入り盾	現代において、装飾の価値を見出す ／装飾でつくられたベンチ	佐藤 知美	多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科
榮久庵憲司賞	審査員選評入り盾	Enjoyment trick	加藤 真生	大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科
柏木博賞	審査員選評入り盾	そらいろ研究所	山口 藍	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
河原敏文賞	審査員選評入り盾	水のデザイン	高山 翔吾	多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科
坂井直樹賞	審査員選評入り盾	PLAMOFU	飯田 修也	東京デザイナー学院 プロダクトデザイン科 ファニチャーデザイン専攻
都築響一賞	審査員選評入り盾	消耗品素材のデザイン化 -蠟燭-	若槻 千鶴	東北芸術工科大学 デザイン工学部 生産デザイン学科
日比野克彦賞	審査員選評入り盾	Rhythmode～Huay sao tao collection 2007～	漆畑 ゆう子	京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科 空間デザインコース
向井周太郎賞	審査員選評入り盾	菜生紙	幸治 絵理子	東洋美術学校 視覚伝達デザイン科 ビジュアルデザイン専攻
茂木健一郎賞	審査員選評入り盾	真鶴	佐野 由美子	筑波大学大学院 芸術研究科 デザイン専攻

作品の詳細については次頁作品概要ならびに当アワードウェブサイト([www.m-kagaku.co.jp](http://www.m-kagaku.co.jp))をご参照ください。

## 【大賞】

該当作品なし。

## 【佳作】

受賞者: 庄司さやか(東京藝術大学 美術学部 デザイン科 卒業)

作品名: ハラペコ

作品概要:

何かよくわからないけど生き物っぽい白い立体をスクリーンとし、そこに様々な動物たちのアニメーションが映し出される。映されたエサによって、それを食べる様々な動物へと変化を見せる。

周りの状態や与えられるものによって、生き物や環境はよくも悪くも変わっていくものだ、というメッセージを暗に示しピースフルな世界観で表現した。



## 【佳作】

受賞者: 黒沼宏美(東北芸術工科大学 デザインデザイン工学部 生産デザイン学科 卒業)

作品名: 立体風の造形研究 - 浮遊する機能的造形 -

作品概要:

空気よりも重い物体を空中に上昇させるという、地上の重力に反した現象は、感覚的に不思議さと驚きを与えるものである。立体風の研究を通して、浮遊する機能的造形を導き出し、風の効果的利用によって「物体は浮かないもの」という常識を越えた空間を作り出す。また、人の視覚に訴えるその造形は、浮遊する機能を果たし、美しく、様々な動きによって「目で触れる」ことができるコミュニケーションツールとなる。



## 【佳作】

受賞者: 三村健太(エスモードジャパン大阪校 総合科 スティリズム専攻 卒業)/共同制作者: 磯部拓也

作品名: 茶道

作品概要:

日本の文化のひとつである茶道。茶道に使用される茶器や茶筌のラインを、シルエットやボリューム感へ展開し、また、和菓子の色や質感を、素材感へ発展させ、シンプルな現代服に落とし込みます。「日本を感じさせる服」茶道という文化全体を見直し、新たな角度からもう一度見直すことで、今まで気付かなかったラインや、それを表現するテクニックを発見し、次世代の文化服を提案しました。



## 【三菱化学賞】

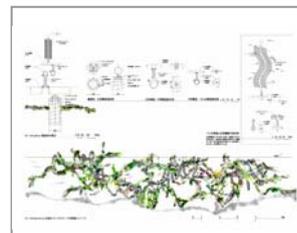
受賞者: 丹 洋祐(長岡造形大学大学院 造形研究科 空間計画学専攻 卒業)

作品名: tri-structure による藻場再生プログラムの研究

- 海浜環境における「からみ・ほぐし」造形論 -

作品概要:

tri-structure は、樹木のアナロジーをもつ構造架構体です。近代の港湾開発によって失われてしまった豊かな海浜環境をとり戻すために、人工的に海中林をつくるシステムです。さらに、tri-structure は、「からみ・ほぐし」造形によってつくられます。「からみ・ほぐし」造形は、豊かな海浜環境をつくる空間幾何学のなかに見つけ出した、独自の造形コンセプトです。



## 【水野誠一賞】

受賞者: 島田真帆(武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 卒業)

作品名: 旭川-水の百様-

作品概要:

岡山県にある一級河川「旭川」の、源流から河口までの風景や水の様相を辿った絵巻です。本の形状は折り本形式で、右に開くと源流から河口までの川の様子が、左に開くと河口から源流までの風景が展開します。前者のテーマは「水の様相の変化」、後者のテーマは「川そのものを描かずに、川を伝える」というもので、一冊の本の表裏をもって川の在り様を記述し、新たな川の見方を提示した本です。



## 【石井幹子賞】

受賞者: 佐藤知美(多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科 卒業)

作品名: 現代において、装飾の価値を見出す／装飾でつくられたベンチ

作品概要:

今、世界に存在する歴史的な装飾の数々は人の文化の中で人の感性に感動を与えています。装飾はこれまで、その美しさや時間をかけて作られる手間に対し価値があると考えられてきました。しかし技術が進歩した今、人の手で作られるものは少なくなっています。

そうした現代における装飾のあり方とは何かを問い直し、単なる飾りではない人の心を豊かにできるものを創りたいと考えました。



## 【榮久庵憲司賞】

受賞者: 加藤真生(大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科 卒業)

作品名: Enjoyment trick

作品概要:

花嫁の打ち掛けをイメージした衣装である。衣装として着用した後は衣桁等にかけてタピスリーにでき、思い出が生活空間を彩れる様にした。透け感があるので軽やかな雰囲気になるだろう。全て手縫いで行ったのは、大切に育てた子供を想う親心を表現したかったからである。人を幸せにするのは温かい想いだと思う。愛情をこめての手仕事のすばらしさはそこにあり、工芸の生活美の信念だと感じ、それをコンセプトに制作した。



## 【柏木博賞】

受賞者: 山口 藍(武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 卒業)

作品名: そらいろ研究所

作品概要:

クレヨンセットの中には2本しか空色がはいってません。しかし、本来の空色は、夏の日が覚めるようなブルーも、夕暮れの染めたような美しい橙色も、すべて空色です。子供たちに空色の豊かさを知ってもらおうと同時に、他の色への興味を持つきっかけとなることをコンセプトに、春夏秋冬、昼夜、日本と海外、様々な状況によって刻々と変化している本当の空色を、2本ではなく400本のクレヨンで紹介して表現しました。



## 【河原敏文一賞】

受賞者: 高山翔吾(多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科 卒業)

作品名: 水のデザイン

作品概要:

公園の手洗い場のデザイン。我々にとって水は最も身近な物質の一つとも言えるだろう。日常で意識する事無くにそれに触れ、利用し、消費している。蛇口を捻ると水栓金具の先端から現れ、30センチ下の排水溝に流れ消えてゆく姿が本来の水の姿だと思っではないだろうか。「本来この物質が持っている清涼感や美しさをどこかに置き去りにしているのではないか」そんな違和感がこのデザインの切っ掛けである。



## 【坂井直樹賞】

受賞者: 飯田修也(東京デザイナー学院 プロダクトデザイン科 ファニチャーデザイン専攻 卒業)

作品名: PLAMOFU

作品概要:

「play more furniture」をコンセプトに、5種類 19 パーツのピースが、様々な形に変形する家具です。これだけで椅子やテーブル、本棚といった基本的なものだけではなく、抽象的な動物や鉄砲など子供でもいろいろな形を生み出す事ができます。私がデザインしたものが人の手に触れた時また新しい形に変化する。そんな次世代のコミュニケーションを大切にしたいと思い今回の作品を提案します。



## 【都築馨一賞】

受賞者: 若槻千鶴(東北芸術工科大学 デザイン工学部 生産デザイン学科 卒業)

作品名: 消耗品素材のデザイン化 - 蠟燭 -

作品概要:

使用することで形状を失う蠟燭などの消耗品は、アート造形としての発展ばかり著しく、デザイン目線での歴史は滞っている。もしもその確立された印象を違う形で再現できたら、そこにはアートではない「プロダクト」としての新たな可能性が生まれる。

私は同じ消耗品素材「石鹼」が「紙石鹼」になったとき、そこには造形アートとは異なるデザイン性を感じた。立体が平面になる有用性。造形ではない蠟燭のデザイン化の追及。



## 【日比野克彦賞】

受賞者: 漆畑ゆう子(京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科 空間デザインコース 卒業)

作品名: Rhythmode~Huay sao tao collection 2007~

作品概要:

首長族の村を訪れること4回。私は山岳民族の素朴な生活に魅了され、卒業制作をタイの村で行うことにしました。大好きな場所で大好きな人々に自然の物をメインにヘアメイクを行なうことにしました。その行為が、言葉以上の会話となり、私と村人の距離を縮めてくれました。リズムのように浮かんでくるイメージと、即興音楽のように奏でられる村人との共同作業。それによって完成した作品です。



**【向井周太郎賞】**

受賞者: 幸治絵理子(東洋美術学校 視覚伝達デザイン科 ビジュアルデザイン専攻 卒業)

作品名: 菜生紙

作品概要:

作りすぎたり売れ残った野菜は、年間およそ 2000 万トンも捨てられています。愛情を込めてつくられた 野菜たちに、ふたたび光を当てることはできないかと考えました。その活用法として、野菜だけを原料に紙をつくって、一緒に野菜や花の種を漉きました。「芽がでる、野菜のチップ」が、庭や鉢植えで一度花を咲かせます！



**【茂木健一郎賞】**

受賞者: 佐野由美子(筑波大学大学院 芸術研究科 デザイン専攻 卒業)

作品名: 真鶴

作品概要:

物語と絵を紙面で絡めていくというのは何ら目新しい方法ではないと言えるかもしれません。ただ、その中で、絵の「量」や「テンポ」にこだわって、新しい「絡め方の塩梅」を追求したのが本作です。1 ページに 1 枚ずつのテンポで絵を提示していき、ごく短編とされる志賀直哉の『真鶴』を、373 ページかけて表現しました。アニメーションの絵コンテを参考にする事で、映画的な印象を持たせることを目指しました。



**審査員長 水野 誠一**

年々、総合的な作品のレベルは高まっていると思います。しかしながら本年、大賞該当作品がなかったということは、飛び抜けたインパクトのある作品が見あたらなかったということでした。我々審査委員としては、対象が卒業制作作品故に、単に優等生的作品ではなく社会に出てからでは、なかなか挑戦し得ない意欲作や問題作を期待しているからです。これからも果敢な挑戦を期待しています。

**石井 幹子**

デザインの分野は、いま大きな広がりを見せています。また、新しい素材や手法も多岐に涉っています。瞬時にして沢山の情報が世界を駆け巡る今日、一つのテーマに絞り込んで卒業制作に打ち込むことは、多大な努力とエネルギーが必要とされることでしょう。

そんな中、卒業制作は、いってみれば学生時代の最後を飾る作品でもあり、卒業後の飛躍へのスプリング・ボードでもあります。制作者の方々の今後の活躍を期待します。

**榮久庵 憲司**

時代の流れに即応することは、デザインをするに当って重要な要素です。時代を視る目が必要です。残念ながら入選一位が選ばれなかったが、もう一息というデザインは一杯ありました。只「成る程！」という迫力に欠けていました。卒業制作は作業に取り掛かる前が重要です。しっかり目的を掴み設計の段取りを細かく決めておくことです。これは社会に出てからも同じです。卒業制作は青春を發揮する最後のチャンスです。人生を大事に。

**柏木 博**

ファッション、グラフィック、プロダクトなどテーマにかたよりもなく、さまざまな表現に広がっていたことは、とても良い傾向だと思いました。また、提出された作品の多くが、一定の完成度を持っていることも良かったと思います。ただ、一方では、多くの審査委員が感じていたことですが、驚かせるような作品が見られなかったことが少々残念でした。来年度は、審査委員を驚かせるような作品を、ぜひ期待しています。

**河原 敏文**

若い人達に望みたいのは、デザインや実用性の完成度の高さより、とんでもない斬新な提案です。与えられた課題に対する「新しい解答」より、むしろ、私達の社会や時代に今求められている「新しい問題」を発見、発案し、そのことに対する大胆で独創的な提案をしてほしいです。担当教授の推薦による卒業制作のエントリーという制度は一度見直しの時期に来ているような気がします。

**坂井 直樹**

今年のアワードは、ちょっと優等生っぽい作品が多かったかな？ スティーブ・ジョブスが google の原型と語った本があります。それは 1968 年に出版され、アメリカのヒッピーたちの中でベストセラーになった元祖エコ本「The Whole Earth Catalogue」(全地球カタログ)その最終版に出てくる、ジョブスが好きな言葉「Stay hungry, stay foolish. (ハングリーであれ。馬鹿であれ)」を、皆さんに送りたいと思います。

**都築 響一**

卒業制作とは、そのあとに君たちを待つ就職へのプレゼンテーションではありません。「社会に出たらやりたいこと」よりも、「社会に出てしまったらできないこと」を見せてほしいといつも思うのですが、今年は残念ながらそういうザラザラした、制作への渴望に出会うことができませんでした。10代から20代への、いちばん感受性豊かな4年間を、会社員になるためのトレーニング期間に費やしてしまって悔いはないのか。就職がますます難しくなるいまこそ考えてほしいし、それは教える側にも突きつけられる問いです。

**日比野 克彦**

例年よりバリエーションが少なかったような気がします。确实思考というか、及第点のものが多く見受けられました。アイデアの段階において、社会との関わりに重点を置きすぎると個人の独創性が弱くなっているのでしょうか。もしくは具現化する段階において個性が出きれていないのでしょうか。アイデアか表現手段のどちらかに、そのひとらしさが欲しいですね。

**向井 周太郎**

全体にプレゼンテーションの完成度は高くなっているが、デザインの問題発見自体が困難になっているように思われる。デザインとアートの境界の溶解をはじめ従来のデザイン個別領域を越えた作品も多くなっているが、全体に問題の志向性がより個人的で小さくまとまる傾向にある。今日では領域を越えた横断的な全方位のデザイン思考がますます重要になっている。しかしそのベースとなるデザイン教育の変革がまだ用意されていないようにも思われる。学生として文明や文化、社会や生活の在り方に対して生き生きとした関心と好奇心を広く育ててほしいと思う。

**茂木 健一郎**

今年も興味深い作品との出会いがたくさんあった。デザインで最も求められているものは、ある意味では「少数派」に属する感性かもしれない。ユニークな発想を多くの人に認めてもらうためには、自分の個性と格闘して、その限界を乗り越える覚悟がいる。少数派よ、勇気を持って欲しい。そして、不特定多数の人々に愛を放射する、心の広さを持って欲しい。

**MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2008 実施概要**

- 主催:** MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 実行委員会  
委員長:水野誠一／委員:石井幹子、榮久庵憲司、向井周太郎、富澤龍一
- 対象分野:** プロダクト、グラフィック、ファッション、マルチメディア、パッケージ、デザイン研究などのデザイン全般。
- 応募資格:** 高等学校卒業後、日本で2年制以上のデザイン関連学校で修学し、2007年3月に卒業する学生の卒業制作。また、高等専門学校卒業生も応募可能。
- 応募方法:** 応募フォームによるオンライン応募
- 審査基準:** 独創性、デザイン性、機能性、実現性・経済性、社会への貢献
- 審査員:**
- |        |        |   |
|--------|--------|---|
| 審査員長   | 水野 誠一  | (ソーシャル・プロデューサー)                             |
| 審査員    | 石井 幹子  | (照明デザイナー)                                   |
| (50音順) | 榮久庵 憲司 | (インダストリアルデザイナー)                             |
|        | 柏木 博   | (武蔵野美術大学教授、美術評論家)                           |
|        | 河原 敏文  | (プロデューサー、ディレクター、CGアーティスト)                   |
|        | 坂井 直樹  | (コンセプター)                                    |
|        | 都築 響一  | (編集者)                                       |
|        | 日比野 克彦 | (アーティスト)                                    |
|        | 向井 周太郎 | (武蔵野美術大学名誉教授、デザイン研究者)                       |
|        | 茂木 健一郎 | (脳科学者、<br>ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー)       |
| 特別審査員  | 富澤 龍一  | (株式会社三菱ケミカルホールディングス代表取締役会長、<br>三菱化学株式会社取締役) |
- 審査方法:** 上記審査員による一次審査(書類)、最終審査(実物または模型およびプレゼンテーションパネル)により決定。
- 賞典:**
- |        |         |                 |
|--------|---------|-----------------|
| 大賞*    | (1 作品)  | トロフィーと賞金 200 万円 |
| 佳作**   | (2 作品)  | トロフィーと賞金 50 万円  |
| 三菱化学賞  | (1 作品)  | トロフィーと賞金 50 万円  |
| 審査員特別賞 | (10 作品) | 各審査員の選評入り盾      |

\*本年度は、大賞該当作品なし。

\*\*大賞作品該当なしに伴い、佳作を3作品選出する結果となりました。

9回目となる『MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2009』の作品募集は、2009年1月開始予定です。